



コロナ禍での北特研・・・

北海道特別支援教育研究協議会総括事務局次長 西 野 護

本来であれば令和2年7月28日～29日の2日間、北海道札幌稲穂高等支援学校を会場に開催されます予定でした全道研究大会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止となりました。昨年度から大会に向けた準備を進めており、非常に残念でしたが、安心・安全な大会運営ができる状況ではないことから、断腸の思いで中止を決断した次第です。

コロナ禍の状況下で、どのように北特研を運営していくか・・・3月から総括事務局において常に議論をしてきました。会員募集や会費、事業計画や予算計画など、北特研役員や地区代表理事所属校と協議を行いながら、最終的には先日書面にて行われた総会での議案書の内容となりました。書面協議におきましては、貴重なご意見や研究会の意義について心強いお言葉をいただき、ありがとうございました。北特研の主たる事業が中止となり、会員の皆様に事業を提供することができないなか、来年度以降の北特研に向けてご協議いただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。なお、いただいたご意見については、次項に掲載いたしますので、ぜひご覧くださいますようお願いいたします。

また、北特研の現時点での最終的な会員名簿についても掲載いたしますのでご確認ください。8月末現在で707名（準会員含）となりました。ご協力ありがとうございます。なお、以前配布いたしました名簿において、会員のお名前に間違いがあり、訂正させていただきました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

現在、各校においては、いわゆる「学校の新しい生活様式」に基づいた教育活動について、日々検討とともに子供たちの安心・安全な学校生活の実現に向けた取り組みが行われていることと推察いたします。例年取り組んできた学校行事なども見直しを迫られ、これまでどおりの教育活動を行うことが難しい状況であり、日々苦慮されていることでしょう。このような困難な状況ではありますが、一方で見方を変えますと、これまでの取り組みを振り返り、目的と内容を大きく見直す中で、あらためてその意味や価値を再確認する機会となっているとも考えられます。これはまさに「カリキュラム・マネジメント」の営みそのものであり、あらためて子供たちが「何を、どのように学び、どのような力が付くのか」を組織全体で再確認することに他ならないと言えます。また、感染症対策を踏まえた実践の再考は、生徒個々への学習環境についての構造化を考えることに他ならないのではないのでしょうか。現状を前向きに捉え、できることを一つ一つ積み上げていく我々の姿勢や行動が、子供たちの成長につながることを信じて教育を進めて行くことを再確認し、北特研がその牽引役として、前向きに学び続けることができるように、来年度以降に向けた運営を進めていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

令和2年度北特研総会
書面協議・承認用紙 質問・意見集約 及び 回答について

議事	頁	ご意見・ご質問等	総括事務局
令和元年度 事業報告	1	特に意見・質問なし	
令和元年度 決算報告・会計監査	2	特に意見・質問なし	
令和2年度 事業計画案	3	特に意見・質問なし	
令和2年度 会計予算案	4	特に意見・質問なし	
確認事項	5	<p>●「役員の選出について」の表について、地区事務局輪番において、北斗高等支援学校が令和5～7年に担当する記載ですが、「研究大会運営の手引き」3頁の2. 総括及び各地区事務局の年度別の設置計画では、北斗高等支援学校が令和4～5年に地区事務局を担当する記載になっています。これだと4年連続で北斗が担当することになりますか？今後の調整で解消されるのでしょうか？道南事務局のR6-7年度は伊達？</p>	<p>○ご意見ありがとうございます。まず、副会長と地区事務局輪番との関係についてご説明いたします。副会長所属校については、本会運営細則第9条の通り、「次期総括事務局校及び地区事務局校（輪番）」となっております。ここで地区事務局校については、兼全道研修会を行う事務局校とさせていただいている関係から、本来は令和5～6年が北斗高等支援学校ということになります。<u>（地区事務局校の期間（令和4～5年）と副会長の期間（令和5～6年）が違うことにご留意願います。</u>なお本年令和2年度についても、昨年兼全道研修会を行った札幌養護学校が副会長所属校となっております。）</p> <p>しかし、令和7年度に全国大会が控えていることから、大会実施3年前から準備をすることを鑑みると、全国大会年度に役員を変更しない方が大会運営に向けてより良いのではと考えたことから、このような形で提案いたしております。</p> <p>なお、地区事務局については、手引きの表の通り、令和4～5年が北斗高等支援学校となり、令和6～7年が伊達高等養護学校となります。</p>

		<p>・R9～10の副会長が札養となっておりますが、道央地区事務局（R8-9）はもなみ学園分校（伏見）？ 〈北斗高等支援〉</p> <p>●夕張高支援→夕張高養（訂正願います。）〈夕張高等養護〉</p>	<p>・R9～10の副会長については、ご指摘いただきましたとおり「伏見支援学校（もなみ学園分校）」の間違いでした。来年度の議案書で訂正いたします。</p> <p>○ご精査いただきありがとうございます。ご指摘いただいたとおりです。来年度の議案書で訂正いたします。</p>
研究計画	7	特に意見・質問なし	
会則・細則	9～11	特に意見・質問なし	
役員	14	特に意見・質問なし	
会員助成 研修会助成	15	特に意見・質問なし	
資料	16～23	特に意見・質問なし	
研究大会運営の手引き		<p>●「役員を選出について」の表について、地区事務局輪番において、北斗高等支援学校が令和5～7年に担当する記載ですが、「研究大会運営の手引き」3頁の2. 総括及び各地区事務局の年度別の設置計画では、北斗高等支援学校が令和4～5年に地区事務局を担当する記載になっています。これだと4年連続で北斗が担当することになりますか？今後の調整で解消されるのでしょうか？道南事務局のR6-7年度は伊達？</p> <p>・R9～10の副会長が札養となっておりますが、道央地区事務局（R8-9）はもなみ学園分校（伏見）？ 〈北斗高等支援〉</p> <p>●事務局業務ありがとうございます。手引きにもありますように、会員がやって良かったと実感できる部会設定や若手職員に対する理解啓発活動も引き続きお願いします。 〈釧路養護〉</p> <p>●例年1，2月に実施していた「地区理事研究協議会」が書面開催になることにより、例年とは異なった準備や考慮しなければならないことも出てくるかと思えます。令和3年度地区大会の実施に向けて徐々に準備を整えていきますので、引き続きよろしく申し上げます。 〈美唄養護〉</p>	<p>○「5 確認事項」においてご説明させていただきましたので、割愛いたします。</p> <p>○ご意見いただきありがとうございます。ぜひ会員のみなさまの建設的なご助言、ご意見、アイデアをもとに会員のみなさまで実現できるように今後もよろしく申し上げます。</p> <p>○コロナ禍において、様々な状況が想定されるなか、地区大会をご準備いただくこととなり、お手数をおかけいたしますが、ぜひ建設的な議論を行いながらよりよい大会を実施していくことができるよう、今後ともご理解ご協力をよろしく申し上げます。</p>

	<p>●コロナ等感染症流行に伴う大会中止または配慮した上での開催等のためのガイドラインが必要 〈小樽高支〉</p> <p>●道央圏の所属校が19校とあり、多くないか？地区の再編をし、均等になるようにしてはどうか？(P12) 〈七飯養護〉</p> <p>●(内容ではなく表記についてなのですが、P8の真ん中あたりに「承認的」という表記が2回出てきますが、「的」は要らないのかなと思いました。) 〈豊明高支〉</p>	<p>○ご意見ありがとうございます。今後も情報収集に努め、大会実施に向けた検討を進めていければと考えております。現状では、政府、及び文部科学省から出されている「学校の新しい生活様式」に基づくことが、ガイドラインと考えます。中止の判断についても感染状況等を鑑みながら協議していくことが必要と考えます。今後も連携・協働をよろしくお願いいたします。</p> <p>○ご意見ありがとうございます。これまでの北特研総会において、何度も議論となっていることでもあります。道央圏の集中も課題ですが、一方で他地区における学校間の距離も大きな課題であり、今後も議論が必要と考えております。学校間の距離、地区ごとの学校数など、一定の均等化をどのように行っていくべきか、ぜひ建設的なご意見をいただけますと幸いです。</p> <p>○ご意見ありがとうございます。おそらく「柔軟的」の表記かと思われるのですが、来年度の議案書で訂正いたします。</p>
--	--	--